



## 振り返って まちづくりはたいへんだけど、面白い！ 担当：唐津

「みなとまちづくり瓦版」もはや第16号となりました。当初みなとまちづくり構想推進協議会では、「高砂のまちはどうあるべきか」、「どうすれば活性化するか」、「人流を活発にするには」・・・と議論が噴出していました。そのような中、高砂町内を訪れる人に歴史を知って貰おうという意見が出され、史跡等にその解説を記した石柱を建てることになりました。また、その石柱には市内で産出した「竜山石」を用いることになりました。史跡等は町内にたくさんあるため、その選定に大変苦勞し、やっとのことで24箇所を決めました。しかし、その解説文を誰が何をもち、何文字くらいで書くのかを決めるにも悶着！石柱に文面が残るため「正確な文章に・・・」との期待に、協議会メンバーは大きなプレッシャーを感じながら作業を進めました。

特に記憶に残るのが、現在、観光交流ビューローの前に立っている『河合善三郎』の石柱です。当時、ガイドが用いていた兵庫県発行のガイドブックに「河合善三郎の生家は向島公園に行く途中の竹藪の中に有る」とあり、そう信じていましたが、念には念をと末裔の人を探しあて、戸籍謄本を見せて頂くと今津町の工業部南辺りと判明し、その近くに建てることができました。

当時、活発に活動していた市民グループの中には高齢化により活動を中止したグループもあれば、最近勢いを持ってまちづくりに奔走しているグループもあります。このみなとまちづくり構想推進協議会がもっとリーダーシップをとって共に継続性と活気のあるまちづくりをしていけるような組織体制になる事を期待しています。



竜山石の石柱  
再発見地図  
(石柱の位置掲載)



## 振り返って 高砂の魅力を活かしたまちづくりを！ 担当：網干

高砂市は播磨沿岸の東部に位置し播磨工業地帯の中核を担ってきましたが、その反面、市民にとってなぎさ(臨海部)は遠い存在になっていました。そのため、元気で魅力のある「みなと」になるように、またそのような「みなと」を市民に開放できるように、平成17年に立ち上げられた推進協議会を中心に様々な取り組みを行ってきましたが、ご存じでない方も多く、広く市民に浸透していなかったのではないかと考えています。

私は、平成29年から産業ミュージアム部会員として、また「みなとまちづくり瓦版づくり隊」の隊員として、この瓦版の発行に携わってきました。高砂に生まれて69年が経ちますが、高砂ってどんなところかなどの思いから、高砂を散策したり、銀座商店街の空き店舗を活用する試みとして立ち上げた「LINC TAKASAGO」でお話を伺ったりして、記事を作成しました。また、企業紹介として(株)籠谷さんを紹介するなど、「みなと」の魅力を発信してきました。

私が若いころの高砂は活気にあふれ生き生きとした思いがありますが、人口減少の波を受け、住宅や店舗の空きが増え、寂しく賑わいがなくなってきています。私は、高砂には魅力ある何かがあるはずだと思っています。みんなの知恵を出し合うことで高砂を魅力あるまちにしていけたらと願うばかりです。ファイト高砂！



## 振り返って 継続は力なり！ 担当：田中

早いもので高砂みなとまちづくり協議会と共に歩んだ瓦版も第16号(最終号)となりました。この瓦版を手にとって下さったみなさんに「高砂みなとまちづくり」を知ってもらい、高砂市の新たな魅力に気付いてもらえたらと、記事を求めて取材に行ったり、話し合いを重ねたり・・・。その結果、本当にたくさんの高砂市の魅力を発見することができました。

市のホームページから懐かしい瓦版を振り返ると、「高砂のまちがこんなに変化したんだ！」と驚き、こつこつと積み上げたきたものの大きさに気付かされます。高砂みなとまちづくり協議会の活動の節目は目前に迫っておりますが、これから展開されていく新たな取り組みが楽しみでなりません。

長期にわたりご愛読いただきまして、誠にありがとうございました。



## 第16号(最終号) 令和5年3月

# みなとまちづくり瓦版

高砂市の臨海部がもっと元気になるため、住民と企業が行政と一緒に「高砂みなとまちづくり構想」をつくり、様々な活動を行ってきました。

今後は、みなとまちづくり構想自体の成果や課題等を検証し、目標年次である令和7年以降、構想やみなとまちづくり推進協議会がどうあるべきか検討を進めていきます。その検討にあたり、現在プロジェクトチームの見直しを図っており来年度から新体制で、密に協議を進めていきたいと考えています。

活動を活発に  
していくためには、  
どんな体制が良  
いかな？



## みなとまちづくり瓦版をリニューアルします！！

令和7年以降の構想や協議会の新しい在り方を検討していくにあたって、この「みなとまちづくり瓦版」についても検討を行っていくことになりました。今後は、情報を必要とされるより多くの方々タイムリーに発信していく方法を検討していきます。

新たな形でみなさんにご紹介できるまで乞うご期待！！



これまでの「みなとまちづくり瓦版」を  
見ることができるよ！



### 【お問い合わせ先】

高砂市みなとまちづくり構想推進協議会 事務局  
(高砂市都市創造部都市住宅室都市政策課)  
〒676-8501 高砂市荒井町千鳥1丁目1番1号  
TEL 079-443-9033 FAX 079-443-9091

編集：みなとまちづくり瓦版づくり隊

発行：高砂みなとまちづくり構想推進協議会

# みなとまちづくりの成果

産業ミュージアム部会

ウォーターフロントミュージアム部会

歴史ミュージアム部会

## ○案内板設置

高砂町の歴史を知ってもらうため、竜山石を用いた歴史的資源の説明板24箇所を設置しました。



竜山石を用いた石柱

## ○堀川地区のまちなみの保存

修復され一般公開されている工業邸の駐車場及びトイレの整備、道路整備（カラー舗装）を行いました。



駐車場及びトイレの整備

カラー舗装された道路

堀川地区に現存する古民家を活用して、高砂の歴史資料を展示するスペースを設け、高砂地区まちづくり協議会がギャラリー等に利活用しています。



高砂来て民家「花井家住宅」

## ○歴史回廊ルート・観光ガイドづくりとイベント実施

「高砂歴史ガイドクラブ」などが語り部育成を行っています。そして、旅行者及び市民、小学生などに対してセミナーやまち歩きを実施しています。



ガイドクラブによるまち歩きの様子

## ○高砂の表玄関づくり

令和2年2月に高砂駅南周辺整備基本計画が策定されました。令和3年11月より地権者を対象とした説明会を開催し、協議しています。



高砂駅前広場のイメージ図

「高砂みなとまちづくり構想」をもとに取り組んできた成果を紹介します！



## ○南北交通軸の整備

沖浜平津線は慢性的な渋滞が発生するなど地域社会、経済活動に支障をきたしていましたが、平成29年12月に小松原工区が完成し、自転車道も整備された安心・安全な通行ができる道路として活用されています。

沖浜平津線（小松原工区）着年後



①

## ○あらい浜風公園の利活用

あらい浜風公園に一人でも多く足を運んでもらおうと、取り組みの一つとして「ふれあい花壇」の充実を図っています。市民のみなさんにより植えられており、一年を通して綺麗な花を咲かせています。



ふれあい花壇に植栽の様子

## ○高砂海浜公園・向島公園の利活用、公園整備や公園施設の改良及び海辺の保全

高砂海浜公園は白砂青松や海に浮かぶ人工島が広がり、水遊びや散歩など一年を通して楽しめる公園です。公園内は車いす利用もできるように、舗装や手すり、多目的トイレの整備を行いました。また、人工島には夕焼けを眺望できる休憩所の整備を行いました。



多目的トイレの整備

夕焼け眺望できる休憩所

## ○堀川周辺の歴史再現空間との連携

たかさご万灯祭は平成18年に高砂町が「歴史的景観形成地区」に指定されたことをきっかけに、「みなと堀川まつり」という名称で始まりました。翌年の平成19年から官民が一体となった実行委員会を立ち上げ名称も「たかさご万灯祭」と名称変更し、昨年で13回目を迎えました。



十輪寺のライトアップ

高砂銀座商店街のライトアップ

## ○高砂西港リニューアル

臨海部企業の需要に対応するため、臨海部企業の物流拠点として専用碼頭、公共碼頭の整備、親水空間の一体整備としてみなとの丘公園の整備が平成28年3月に完成しました。



高砂西港整備後の写真

## ○空き店舗活用

高砂商工会議所が中心となり取り組んでいる「LINC プロジェクト」により、高砂銀座商店街の空き店舗を coworking space「LINC TAKASAGO」として活用されています。



coworking space「LINC TAKASAGO」

## ○伝統産業のPR

高砂には、古墳時代から採掘されている「竜山石」や、江戸時代に姫路藩を代表する特産品として生産された「高砂染め」、江戸時代の海運の繁栄に大きな役割を果たした「松右衛門帆」があります。これらの魅力が観光交流ビューローが、ホームページやポスター、チラシ・ワークショップの実施により情報発信しています。



ワークショップの案内と竜山石のPR

## ○播磨臨海地域道路の整備

播磨臨海地域道路は、交通容量の不足、慢性的な交通渋滞、多発する交通事故の3つの地域の課題を改善するとともに、ものづくり拠点である播磨臨海地域の発展に必要な道路です。令和4年には、国土交通省による調査結果を参考に「都市計画・環境影響評価手続き」に向けて関係機関協議等の所定の調整を実施しています。



播磨臨海地域道路のルート帯